

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大学名	奈良先端科学技術大学院大学
整理番号	B08
構想名	先端科学技術を担うグローバルリーダー育成のための世界水準の大学院大学の構築

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	<p>これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。</p>
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、先端科学技術を担うグローバルリーダー育成のための大学院教育の実践を目指し、平成30年度には3研究科体制を1研究科1専攻へ改組し、情報科学、バイオサイエンス及び物質創成科学の3分野を連携・融合して7つの教育プログラムを設置するなど、学際的な教育研究体制を整備したほか、英語のみで修了できる教育体制の構築、ダブルディグリー・プログラムの拡充及び外国人修了生のネットワークを通じた学生募集等により留学生の受入れが増加し、全学生に占める留学生の割合が令和元年に令和5年の最終目標値を上回るなど、着実かつ先導的な成果を挙げている。</p> <p>他方、日本人学生の海外留学の派遣実績や外国語力基準を満たす学生の割合は目標値を下回っている。既に、自主財源により長期留学する日本人学生への渡航費・滞在費等支給によるインセンティブ付与を実施し、学生の入学時のTOEICスコアに基づき「プロフェッショナルコミュニケーション特別強化学生制度」等による英語力向上の取組を開始し、一定の成果を挙げていることから、これらの取組が最終年度における目標値の達成に繋がることが期待される。</p> <p>財政支援期間終了後を見据えた自走化については、大学院大学基金、ネーミングライツ事業、クラウドファンディング、また科研費・受託研究費等、外部資金の獲得などにより自主財源を拡充し、University Education Administrator (UEA)等の人件費について自主財源から支出し、無任期雇用への移行を可能としている点が高く評価できる。</p>	